

○幼児教育の充実



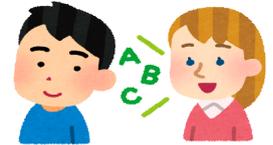
①幼児が遊びに没頭できるような環境の構成

計画訪問では、前日の遊びの様子から、さらに遊びが深まるよう関連する絵本を目に付きやすい所へ配置したり、遊びがどう発展していくか想定し、必要なものを揃えたりするなど、遊びのつながりや深まりを見通して環境の構成をしている場面が見られました。その結果、幼児の生き生きとした姿や試行錯誤する姿など遊びに没頭する姿がたくさん見られました。今後も幼児の興味や関心などの見取りを基に遊びに没頭できる環境の構成をお願いします。

②幼児の思いを受け止めた適切な援助

幼児の登園時の様子や遊びの中での表情やしぐさから、その子に合わせた声かけや見守りなど「個に応じた援助」をする姿がたくさん見られました。また、園児数の減少に伴い、園全体（異学年交流）で保育にあたる場合、担任以外でも同じような援助ができるよう共通理解をする場（3学年分の週案を1枚のシートに示す、毎朝、全員で保育のねらいを確認する等）を設定した園もありました。今後も幼児の思いを受け止めた適切な援助をタイミングよく行うようお願いします。

○英語教育の充実



①小中の質的な連携の充実

計画訪問では、各中学校区の実態に応じた指導体制のもと、外国語活動の指導が行われ、小中の連携を意識した取組が見られました。また、外国語活動について町村全体で研修を行うなどして、小中学校間での情報の交換や共有を図っているところもありました。今後も情報を共有し、よりよい授業づくりと授業者の指導力向上につながるような取組をお願いします。

②授業における言語活動のより一層の充実

各学校では、授業の半分以上の時間が児童生徒の言語活動にあてられていました。児童生徒が自ら英語を使う時間が確保されており、即興的な言語活動を行っている学校も見られました。今後も、児童生徒が「話したくなる」「伝えたくなる」場面や状況を設定し、英語を使う必要感や必然性をもった授業づくりの工夫をお願いします。また、各学校で作成されたCAN-Dオリストも実態に応じて修正・改善を行い、共通理解を図りましょう。

「社会教育からの情報」

【生涯学習係】

『吾妻の特色を生かした人づくり・地域づくり』に向けて

○学校・家庭・地域の連携協力の推進

「継続した取組、途切れない仕組みづくり」

少子化・過疎化が進む中、子ども達の豊かな学びと健やかな成長を支えるには、多くの人の協力が必要です。学校・家庭・地域・行政等の連携を図る「学校支援センター」を有効に活用していきましょう。

「学校支援センター推進研修会」では、先生と地域の人と教育委員会職員と各学校等の課題について協議しました。吾妻では学校と地域の協力関係は良好であるとしながら、それぞれの立場では

- ・先生～地域コーディネーターを配置したいが人がいない。校内の要望をもっと聴こう。
 - ・地域～学校への協力は多々できるが学校ニーズがわからない。活動を楽しみにしている。
 - ・教委～行政のもつ情報を提供し活用を図りたい。計画的な支援や情報発信の方法も検討。
- との意見が交わされました。ぜひ、校内・学区内・町村内でも話し合いの場を設けてください。



学校の課題や要望を整理し、積極的に教育委員会と相談して、継続・発展に努めましょう！